



アグリ情報 ちば



Agri Information CHIBA

 JA全農ちば



私たち全農グループは、**生産者と消費者を**
安心で結ぶ懸け橋 になります。

～JAタウン人気商品をInstagramでライブ配信～

JAとうかつ中央と連携し、「完熟」松戸のいちご ライブコマースを
初開催しました。(2月15日)



CONTENTS

全農自己改革

- 園芸資材事業 段ボール資材のコスト低減に向けた取り組み

営農情報

- 果樹(ナシ)病害虫防除情報

園芸情報

- 販売経過および情勢

米穀情報

- 米穀情勢

肥料情報

- 被覆肥料殻の流出防止について

トピックス

- 千葉県青果物フェア実施!
- 「根菜類」「果樹」専門指導員研修会を開催

お知らせ

- 「アグリ情報ちば」アンケート調査の結果について(報告)

全力結集で挑戦し、
未来を創る

全農自己改革の取組状況

園芸資材事業

段ボール資材のコスト 低減に向けた取り組み

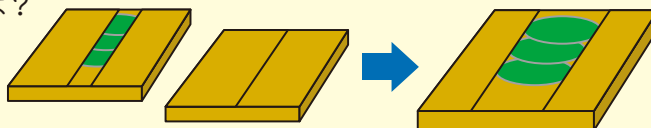
1. 取組目標と内容

段ボール原紙の集約、低コスト原紙の導入、適正な材質および形状への見直し等により、段ボール資材コストの低減をはかるため、段ボール箱の使用状況と規格の比較点検を実施し、見直しをすすめます。

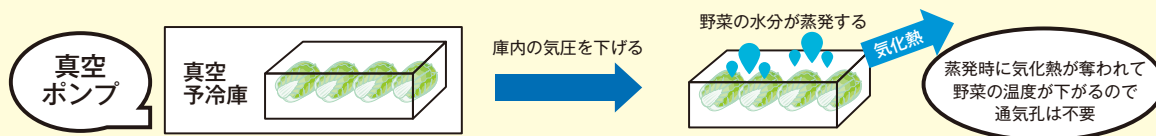
☆規格点検と見直しのポイント

段ボール価格は、主に原紙の使用量と材質で決まります。主な点検ポイントとなるのは、以下の3点となります。

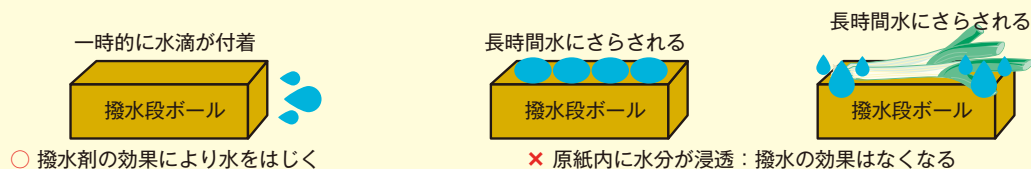
- (1) フラップ（段ボールの天蓋の部分）の長さを短くできないか
⇒もっとフラップを短くカットしても輸送上問題がなく、段ボール原紙の使用量を減らせるのでは？



- (2) 真空予冷なのに、通気孔を開けていないか
⇒差圧予冷では通気孔は有効ですが、真空予冷では通気孔を設けても予冷効果は変わりません。よって通気孔が無い分、強度が上がるので材質を低減できるのでは？



- (3) 本当に撥水原紙が必要なのか
⇒撥水加工は、一時的には有効ですが長時間の湿潤下では効果がないため、結果的には撥水加工が不要ではないか？



★ 段ボール原紙を集約し、低コスト原紙導入（例：裏原紙 K280⇒低コスト原紙AK260、坪量減）により、コスト低減をはかります。

2. 自己改革の進捗状況

令和3年度（2月末）での低コスト原紙の使用率は66%（前年度同期63%）となりました。今後も、実際の使用場面を想定しながらJAと導入試験を実施し、適正化に向けた見直し・切り替えをすすめます。

●低コスト原紙とは…

JA全農と段ボール製紙メーカーで共同開発・実用化した青果物用のJA全農オリジナル低コスト原紙（AKライナー・AS中芯）

果樹（ナシ）病害虫防除情報

1. はじめに

今年の桜の開花予想時期は平年並みとなっています。【桜開花予想（3月8日現在）：東京3月23日（平年3月24日）・銚子3月29日（平年3月30日）】昨年は桜の開花が平年よりかなり早かったため、今年のナシの開花時期は昨年より1週間ほど遅くなることが予想されますが、花芽の様子や気象状況をよく確認し、作業が遅れないように注意してください。

2. 黒星病



防除適期はりん片脱落期直前（3月下旬）から交配終了後（4月中下旬）までです。
適期を逃さず防除してください。

(1) 耕種的防除

- ① 芽基部に発病が見られた場合は基部から切除してください。
- ② 黒星病が発生した落葉からは黒星病の胞子が飛散し、伝染源になります。園内に残っている落葉等は土中に埋めるか、園外に持ち出してください。

(2) 薬剤防除（黒星病対策）

① 3月中旬～下旬（催芽期～発芽期 花芽の防除）

オーソサイド水和剤80による臨機防除 1000倍（収穫3日前まで／9回以内）

★★★ 催芽期～発芽期の防除時期の目安 ★★★

長果枝先端部のりん片が
ゆるんできた頃が目安
見えている中の部分に農
薬をつけることが狙い



図1 防除時期目安



図2 ここまで開くと
オーソサイド散布には遅い

- この防除は秋防除の延長線にあり、芽基部病斑の防除が目的です。防除可能な時期が短いので、特に黒星病の多発園や昨年の秋防除が不十分だった園で散布を行うか検討してください。芽基部発病芽を減らし、その後3月下旬の防除へつなげましょう。
- オーソサイド水和剤80使用時の注意点
 - ・前剤にオイル剤が使用されていた場合、10日ほど間隔を空ける必要があります。（薬液が付着しにくい）
 - ・展開葉部分にオーソサイドがかかった場合、葉先薬害（黒斑点）が生じる可能性があるため、図1の時期を目安に散布を行いましょう。

② 3月下旬頃～（りん片脱落期）

デランフロアブル1000倍（収穫60日前まで／4回以内） または
トレノックスフロアブル500倍（収穫30日前まで／5回以内）

★★★★ りん片脱落期の目安 ★★★★★

早い品種の花芽が
図のように開いて
きたら防除



③ 4月上旬～4月中旬（りん片脱落終了後～開花直前）

マネージD F 6000倍（収穫21日前まで／3回以内） または
アンビルフロアブル1000倍（収穫7日前まで／3回以内）
＋ トレノックスフロアブル500倍（収穫30日前まで／5回以内）
混植園の散布目安は、開花の早い豊水や新高のりん片脱落終了後～開花直前です。

④ 開花中【臨機防除】 長雨や気温の影響等で開花が長引く場合

＋ トレノックスフロアブル500倍（収穫30日前まで／5回以内）
※散布当日は受粉作業を行わない

⑤ 4月下旬（交配終了後）

スコア顆粒水和剤4000倍（収穫14日前まで／3回以内）
＋ トレノックスフロアブル500倍（収穫30日前まで／5回以内）

3. アブラムシ類



アブラムシ被害



ナシアブラムシ 脱皮した抜け殻

3月下旬以降アブラムシが飛来し、展葉期頃から葉が縮れ内側に巻くような被害が現れます。

●薬剤防除

① 4月上旬～4月中旬（りん片脱落終了後～開花直前）

ウララD F 2000倍（収穫14日前まで／2回以内）

② 4月下旬（交配終了後）

バリアード顆粒水和剤 4000倍（収穫前日まで／3回以内）
（シンクイムシを同時防除する場合は2000倍で散布してください）

4. ニセナシサビダニ・チャノキイロアザミウマ

3月中旬以降に発生し、新葉・新梢に寄生します。どちらも新葉へ移動していくので新梢が伸びるにつれて園の上部へ移ってしまい、薬剤がかかりにくくなりますので、開花後から5月にかけての初期防除が重要です。

サビダニ・アザミウマのどちらが問題になっているか確認し、対応する薬剤防除を実施しましょう。モベントフロアブルはアブラムシ防除も兼ねます。

また、ハチハチはミツバチへの影響、モベントは浸透移行性の特性を発揮するため、交配終了後（ハチの心配無し・葉の展葉が進んだころ）からの使用が適切です。

- (1) **サビダニ**：落葉を生じますが、近年では葉のモザイク症状が目立ちます（図3）。
- (2) **アザミウマ**：葉裏が褐色になり、落葉が生じます。被害が目立つのは6月頃からで、サビダニに比べて葉が縦に折れるように曲がります。



図3 被害葉

●薬剤防除

① 4月下旬（交配終了後・モベントは新梢展葉の確認後）

対サビダニ：モベントフロアブル 2000倍（収穫14日前まで／3回）

対アザミ：ハチハチフロアブル 2000倍（収穫30日前まで／1回）

② 5月中旬

コテツフロアブル 2000倍（収穫前日まで／3回以内）

5. ナシマルカイガラムシ 他カイガラムシ類

主に枝に寄生し吸汁加害をします。発生密度が高いと果実表面に寄生するため、商品価値を低下させます。発生密度を抑えるためには春先のマシン油散布が重要になります。またマシン油散布は、カイガラムシ類の他にもハダニ類やニセナシサビダニの防除も兼ねます。マシン油は虫本体に付着しないと効果を示さないため、**発生している樹には散布ムラがないように枝の上面にも散布しましょう。**



ナシマルカイガラムシ多発枝 吸汁被害



ナシマルカイガラムシによる果実被害

●薬剤防除

3月上旬：マシン油乳剤の登録上、散布は発芽前までなので注意

ハーベストオイル（他のマシン油乳剤も可） 50～200倍（発芽前／－）

さらに、ナシマルカイガラムシ対策が必要な場合は、アプロード水和剤1000倍（収穫30日前／2回）を同時に散布します。

園芸情報

販売経過および情勢

青果物 2月の販売経過

2月の天候は冬型の気圧配置となる日が多く、全国的に気温が低くなり、日本海側で降雪・降水量が多くなりました。日照時間は東日本の太平洋側と西日本で多く、低気圧の影響を受けにくかった西日本では降水量がかなり少なくなりました。

2月の東京都中央卸売市場の野菜入荷量は、前年同月比で92%となりました。

1月に続く冷え込みと干ばつが生育に影響したキャベツやだいこんなどの重量野菜のほか、きゅうり、トマト、レタス類、ほうれん草など大部分の品目で前年を下回る入荷となりました。一方、年内の生育が良好で太物が多い近在産地のねぎは前年を上回る入荷でした。

価格は前年同月比で114%となりました。前年より入荷が少なかった多くの品目で前年の価格を上回り、厳しい冷え込みが続いたため温野菜の需要が高まったことも要因と考えられます。一方、ねぎやにんじんは、太物が多く、入荷量が安定していたため、前年を下回る価格となりました。

国産果実の入荷量は、前年同月比で85%となりました。

いちご類では品種間で端境やピーク期にバラつきが生じ、「とちおとめ」では前年を若干下回ったほか、りんごの「ふじ」は前月に続いて前年を下回りました。

価格は前年同月比で112%となりました。入荷が少なかったいちご、りんご、普通ミカン等、主力となる果実類が前年を上回りました。

※数値はどれも東京都中央卸売市場統計データによる

東京都中央卸売市場の野菜入荷量および単価（2月）

	数 量		単 価	
	(t)	前年比 (%)	(円/kg)	前年比 (%)
上 旬	39,116	87	253	108
中 旬	35,352	87	271	117
下 旬	30,877	107	269	118
月 計	105,344	92	264	114

JA全農ちばの販売状況（2月）

	数 量		単 価		取 扱 額	
	(t)	前年比 (%)	(円/kg)	前年比 (%)	(百万円)	前年比 (%)
野 菜 計	27,337	87	163	102	4,448	89
果 実 計	253	101	1,274	106	322	107
だいこん	5,729	88	95	114	543	100
にんじん	6,222	106	86	62	538	66
キャベツ	6,037	71	83	144	499	101
ほうれん草	151	69	404	137	61	95
ね ぎ	1,798	102	83	144	516	62
春 菊	112	93	639	122	72	114
レ タ ス	505	63	315	191	159	120
パ セ リ	21	83	1,052	133	22	109
きゅうり	1,650	89	365	107	602	95
ト マ ト	294	95	309	119	91	112
さつまいも	2,826	100	245	106	691	106
い ち ご	252	101	1,274	106	322	107

③ 月主要品目

作付動向・作柄状況

見通し基準（前年対比）	
多・高	+ 10%以上
やや多・やや高	+ 5%～10%
並	± 5%以内
やや少・やや安	- 5%～10%
少・安	- 10%以上

入荷量・価格は
東京都中央卸売
市場の集計です

品 名	入荷量 (t)		価格 (円/kg)		主産地	作柄および概況
	当年見通し	前年実績	当年見通し	前年実績		
キャベツ	やや少	19,099	やや高	62	愛知 千葉 神奈川	各産地の生育は概ね順調。神奈川は中旬以降に増加傾向となるが、豊作基調であった前年をやや下回り、平年並みの出荷を見込む。価格は前年をやや上回る見込み。
だいこん	やや多	10,009	やや安	77	千葉 神奈川	低温、干ばつで遅れていた出荷が3月に集中し、前年をやや上回る出荷量となる見込み。神奈川が20日頃には出荷漸減となる見込みで、下旬は引き合いが強まる見込み。
にんじん	並	6,636	安	210	徳島 千葉	千葉は残量が多く、徳島は干ばつの影響で生育に遅れ。前年並みの入荷量となるものの、前年ほど大きな端境期とはならないため価格は前年を下回る見込み。
トマト	やや少	6,294	やや高	353	熊本 栃木 愛知	作柄は良好で、平年を上回る入荷が続いた前年に比べ、本年は寒波や病害虫の影響等から若干少なめの入荷を見込む。気温上昇にともない、荷動きは活発になる見込み。
きゅうり	並	6,137	並	311	群馬 宮城 千葉	低温で遅れていた関東春作は気温上昇にともない生育が進み増量期となる。西南暖地の急増はないが、一定の出荷が続く総体量は前年並み。価格は前年並みを見込む。
ねぎ	多	3,477	安	468	千葉 茨城	秋冬作は出荷が終盤だが、前年より残量は多め。下旬頃から春作の出回りも増え入荷は増加傾向。不作で記録的な高値となった前年より大幅に安く、平年並みの価格を見込む。
ほうれん草	並	1,609	並	334	茨城 群馬 千葉	2月までは低温の影響で生育が停滞し、入荷量が少なく高価格となった。3月は気温の上昇とともに遅れていた分が出てくる。価格は前年並みも平年をやや下回る見込み。
パセリ	やや少	54	並	780	千葉 静岡	気温の緩みで全体の入荷量は増加するが、各産地の作付はやや減少していることから前年をやや下回る見込み。また、前年同様に外食需要の低迷から厳しい販売となる見込み。
春 菊	やや少	200	やや高	441	千葉 栃木 茨城	前年よりも冷え込みが強かったため、年明け以降に播種された分については生育遅れが見られる。そのため入荷量は前年を下回り、価格はやや高い見込み。
レタス	並	5,794	やや高	121	茨城 兵庫 静岡	生育が遅れていた西南暖地、茨城ともに増加傾向で、前年並みの入荷となる。中旬以降は西南暖地の出荷が落ち着くことから、引き合いが強まり前年をやや上回る価格を見込む。
なばな	やや多	240	やや安	991	千葉	切り上がりの早かった前年と比較して入荷は多く、桃の節句をピークに価格は落ち着く見込み。気温上昇で生育は回復するが、下旬以降は花咲き等の品質低下が懸念される。
さつまいも	並	2,434	並	272	千葉 茨城	次年作の準備や他品目の作業等により、入荷量は2月に比べ微減となる見込み。価格は堅調な推移を見込むが、気温上昇により焼き芋需要減退が懸念される。
いちご	並	5,269	並	1,371	栃木	生育にばらつきはあるが、各地3番果房の出荷がピークで入荷は前年並み。競合果実が少ないことで販売は安定しているが、気温上昇にともなう品質低下が懸念される。

花 販売情勢

◆2月の販売経過【切花】

前年は、コロナ禍による葬儀・ブライダル縮小の影響から産地によって出荷調整となる品目も多く不安定な入荷となりました。本年においては、1月から続く低温による生育遅れや燃油高による加温不足の影響から各産地の数量がまとまらず、輸入品においても輸送コスト増の影響から数量が少なかったため、入荷量は平年を下回るものとなりました。

販売については、新型コロナウイルスの感染症の再拡大となるなか、葬儀・ブライダル等の業務需要の動きは鈍くなり、菊類やカラー等の上位等級品においてはやや厳しい販売となりました。月間をとおして入荷量は少なかったため、花き全般においては安定した販売となりました。また、フラワーバレンタインや桃の節句需要期においては量販・小売店を中心にスイートピーや菜の花等で引き合いが高まり、堅調な販売となりました。



◆今後の見通し（4月）【切花】

3月から4月上旬にかけては、卒業式や離任式、入学式、歓送迎会等の需要が中心となり、新型コロナウイルスの感染拡大状況によるものの、洋花類は上旬において需要が見込まれ、安定した販売が予想されます。中・下旬においては、大きなイベントもないことからやや不安定な販売となる見込みですが、最終週には5月の母の日需要に期待する状況となっています。

3月以降は、気温上昇等の影響で数量・品質が大きく左右されますので、引き続き圃場管理・出荷調整の徹底、販売先への的確な情報提供をお願いいたします。

◆今後の見通し（4月）【品目別】

品 名	作 柄 お よ び 概 況
カーネーション	千葉・愛知・静岡の出荷が主力。 各産地の生育は概ね順調に推移しており、平年並みの出荷となる見込みだが、輸入品においてはコスト増の影響から平年を下回る入荷となる見込み。 販売は下旬から母の日向けの動きが出てくる見込み。
トルコキキョウ	沖縄・熊本・静岡の出荷が主力。 各産地で低温の影響から生育に遅れがみられるものの、今後気温が上昇すれば平年並みの出荷となる見込み。 婚礼等、業務需要中心の動きとなる見込み。
カ ラ ー	千葉の出荷が主力。 生育に遅れがみられるものの、気温が上昇すれば前年並みの出荷が見込まれる。 婚礼等、業務需要等中心の動きとなる見込み。
金 魚 草	千葉・埼玉の出荷が主力。 今後、気温上昇による品質低下が懸念される。 白系を中心に葬儀等の業務需要中心の動きが見込まれる。
ガ ー ベ ラ	千葉・静岡の出荷が主力。 各産地とも生育は概ね順調に推移しており、出荷量は前年並みを見込む。 ガーベラ記念日に向け安定した販売となる見込み。

米穀情報

米 穀 情 勢

1. 令和3年産精米の消費動向について

2月25日に米穀安定供給確保支援機構が公表した1世帯の平均1人1ヵ月当たりの精米消費量（令和4年1月）は4,489gとなっており、その内訳は家庭内消費量が3,101gで、中食・外食の消費量が1,388gとなっておりです。前年の同月と比較してみると、11月のみ上昇しており、その他の月は減少しました。コロナ禍による巣ごもり需要を経て、消費者の嗜好はより多様化しており、簡単に調理できる麺類等の購入率が上昇していることや、テレワークの普及による運動不足からくる消費の減少も起きていると考えられます。

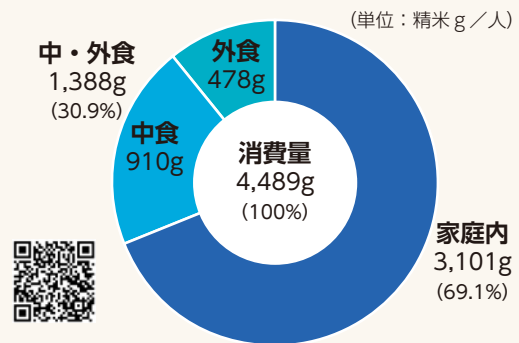
精米の購入先や入手経路は「スーパーマーケット」、「家族・知人などから無償で入手」、「インターネットショップ」の順となっています。

また、家庭内の月末在庫数量は6.8kgとなっています。

全国の消費世帯モニターを対象にインターネットを利用して調査を実施した。家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量および精米購入数量ならびに世帯人員から推計、中食・外食の消費量については調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計した。なお各消費量は世帯ごとの推計値を算術平均したものの。

（参考）米の消費動向調査のしくみ

<https://www.komenet.jp/pdf/chousa%20method.pdf>



【参考】1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

(精米g/人、%)

	1ヵ月当たり消費量			家庭内消費量			中・外食消費量		
		シェア	対前年 同月比		シェア	対前年 同月比		シェア	対前年 同月比
令和4年1月	4,489	100.0	▲ 3.0	3,101	69.1	▲ 3.3	1,388	30.9	▲ 2.3
令和3年12月	4,485	100.0	▲ 4.9	3,044	67.9	▲ 6.9	1,441	32.1	▲ 0.4
令和3年11月	4,784	100.0	0.6	3,347	70.0	2.4	1,437	30.0	▲ 3.4
令和3年10月	4,754	100.0	▲ 2.7	3,287	69.1	▲ 0.4	1,467	30.9	▲ 7.6
令和3年9月	4,321	100.0	▲ 6.9	2,991	69.2	▲ 7.3	1,330	30.8	▲ 6.1
令和3年8月	4,317	100.0	▲ 4.0	2,981	69.1	▲ 2.1	1,336	30.9	▲ 7.9
令和3年7月	4,231	100.0	▲ 8.4	2,874	67.9	▲ 8.7	1,357	32.1	▲ 7.8
令和3年6月	4,556	100.0	▲ 5.2	3,183	69.9	▲ 3.8	1,373	30.1	▲ 8.4
令和3年5月	4,529	100.0	▲ 8.6	3,153	69.6	▲ 9.3	1,376	30.4	▲ 7.0
令和3年4月	4,842	100.0	▲ 4.8	3,404	70.3	▲ 5.7	1,438	29.7	▲ 2.6
令和2年度	4,730	100.0	2.2	3,274	69.2	5.1	1,456	30.8	▲ 3.7
令和元年度	4,626	100.0	4.5	3,114	67.3	0.5	1,512	32.7	14.0

2. 米穀の販売・在庫動向について

3月2日に開催された食糧部会において、令和3年7月～4年1月の販売動向調査の結果が公表されました。販売量は前年の同期間に比べ1.21%増加しており、この結果をもとに、11月の基本指針と同様に令和3/4の需要量を算出すると約7万トンの増加が見込まれます。

令和3/4年の主食用米等の需給見通し

単位：万トン

令和3年6月末民間在庫量	E	218
令和3年産主食用米等生産量	F	701
令和3/4年主食用米等供給量計	G = E + F	919
令和3/4年主食用米等需要量	H	702～706
令和4年6月末民間在庫量	I = G - H	213～217

一方で、12月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大による影響等、先行きが不透明なこと等を踏まえ、11月に設定した令和3/4年の需要見通しについては、変更を行わず「702～706万トン」となりました。

3. 令和4年産の需要に応じた米生産の推進に向けた取り組みについて

米の需給緩和による米価下落への懸念が払拭されない中で、令和3年産に引き続き、主食用米から飼料用米等への作付転換の更なる深掘りが必要な状況にあることから、国・県の助成支援事業を最大限活用した取り組みをすすめる必要があります。

千葉県では、令和4年産米作付転換にむけた支援事業として、県単独補助事業（飼料用米等拡大支援事業）が令和4年度当初予算案として令和4年2月2日に公表され、「転換作物の拡大支援」メニューの見直しが行われています。

県単独補助事業（飼料用米等拡大支援事業）

	取組内容	助成単価（10a当たり）	前年との増減
飼料用米等の定着支援 〔前年から継続して取り組んだ面積に応じて〕	飼料用米（主食用品種）、米粉用米、WCS用稲	2,000円以内	同額
	飼料用米（多収品種*）	3,500円以内	同額
転換作物の拡大支援 〔前年度と比べて主食用米以外の作物を拡大した面積に応じて〕	飼料用米（多収・主食用品種）、米粉用米、WCS用稲、麦・大豆、野菜等の転換作物の拡大	5,000円以内 都道府県連携型助成（国）と併せて10,000円以内となります。	多収品種： ▲5,000円 主食用品種： ▲1,000円
5ha以上の団地化に対する取組を支援 〔飼料用米（多収品種*）、WCS用稲、麦、大豆等が対象〕	ブロックローテーション型	11,000円以内	同額
	固定団地型	4,000円以内	同額

*多収品種：国選定25品種（「べこあおば」「夢あおば」等）、県選定2品種（「アキヒカリ」「初星」）のこと。

「ふさこがね（ちば28号）」は含まれません。

（注）令和4年1月時点の内容であり、変更される場合があります。

4. 令和4年産米等の作付意向（農林水産省 1月末現在）

水田における作付意向について（令和4年産第1回中間的取組状況（令和4年1月末時点））

3年産実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、1月末時点では、**減少傾向22県、前年並み25県**、増加傾向0県となりました。

戦略作物については、「前年より増加傾向」とした県の数が多かった品目は、**飼料用米32県**であり、続いて、**麦24県、大豆24県**、米粉用米22県、新市場開拓用米（輸出用米等）20県となりました。

千葉県では、湿田が多い等の土壌条件により麦・大豆への作付け転換は厳しい状況となっており、引き続き、飼料用米を中心に作付け転換をすすめますが、子実用とうもろこし等の定着性の高い作物での試験的な栽培を実施してまいります。

令和4年産米等の作付意向（前年産実績との比較：令和4年1月末時点）

	主食用米			戦略作物							備蓄米
				加工用米	新市場開拓用米（輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵稲 〔飼料用稲〕〕	麦	大豆	
前年より増加傾向	0県			16県	20県	22県	32県	17県	24県	24県	7県
前年並み	25県			21県	11県	18県	13県	26県	12県	13県	18県
前年より減少傾向	22県	1～3%	15県	7県	7県	5県	0県	2県	9県	8県	7県
		3～5%	3県								
		5%超	4県								

注1：令和4年産の意向（増加傾向、前年並み、減少傾向）は、3年産実績との比較。

2：比較している主食用米の3年産実績は、令和3年12月統計部公表の主食用作付面積。

3：加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の3年産実績は、取組計画認定面積。

4：麦・大豆の3年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

5：備蓄米の3年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

全国の水田作付意向について（令和4年産第1回中間的取組状況（令和4年1月末時点））

(ha)

都道府県	主食用米		戦略作物												備蓄米	
	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲穀餅粗飼料用稲)		麦		大豆	
			3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)
全国計	130.3万		47,641		6,748		7,632		115,744		44,248		101,760		85,484	
北海道	88,400	→	6,178	↑	1,066	↑	72	↑	6,513	↑	620	↑	35,215	↑	18,599	→
青森	34,200	→	853	↑	283	↓	16	↑	7,701	→	660	→	578	↓	4,414	↑
岩手	46,200	↓	1,196	→	343	↑	71	↑	4,683	↑	1,939	↑	3,310	↑	3,764	↑
宮城	61,000	↓	581	↓	748	↑	150	↑	8,076	↑	2,244	↑	1,892	↑	9,175	↑
秋田	71,400	↓	8,855	↑	296	↑	425	↑	3,903	↑	1,106	↑	170	→	8,139	↑
山形	54,900	↓	3,876	↑	285	↑	112	↑	4,628	↑	966	↑	73	↑	4,413	↑
福島	54,700	→	397	↑	38	↑	7	↑	10,038	↑	1,031	↑	273	↑	711	↓
茨城	61,400	↓	1,135	↓	441	↓	43	↑	11,760	↑	571	→	4,298	→	423	↓
栃木	50,600	↓	1,512	↑	93	↑	1,099	↑	12,482	↑	1,769	→	6,866	↑	343	↑
群馬	13,000	→	1,350	→	4	↓	369	↓	1,321	→	539	→	1,913	↑	102	↑
埼玉	28,800	↓	118	↑	41	↑	912	↓	2,910	↑	116	↑	1,856	↑	341	↑
千葉	48,100	↓	1,499	→	13	↓	84	↑	8,190	↑	995	↑	477	↓	281	↑
東京	120	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,920	→	-	-	-	-	-	-	10	→	0	↓	4	→	6	→
新潟	101,800	↓	7,097	↑	1,497	↑	2,145	↑	3,768	↑	400	↑	139	→	3,745	↑
富山	32,200	↓	1,215	↑	416	→	178	→	1,952	↑	453	→	2,999	↑	3,446	↑
石川	21,400	↓	386	→	81	↓	350	→	1,389	↑	99	→	927	↑	896	↑
福井	22,500	↓	348	→	156	↑	196	→	1,490	↑	97	→	4,732	↑	114	→
山梨	4,760	↓	76	↓	-	-	12	↑	18	↑	15	→	57	→	98	→
長野	30,400	→	615	↑	158	↑	18	↑	362	↑	215	→	2,385	↑	534	→
岐阜	20,700	→	616	→	73	↓	48	↓	3,009	→	208	→	3,445	↑	378	↓
静岡	15,200	→	140	↓	1	↑	2	↑	1,075	→	297	→	256	↑	45	↑
愛知	25,800	→	421	↓	37	↑	53	→	2,086	↑	156	→	5,317	→	95	↑
三重	25,900	→	197	→	37	→	91	→	2,043	→	268	→	6,693	→	316	↑
滋賀	28,900	↓	644	→	203	↑	58	→	1,681	↑	277	↑	7,462	→	468	↓
京都	13,600	→	562	→	15	↑	9	↑	101	↑	120	↑	256	↑	241	↑
大阪	4,620	↓	0	→	-	-	5	→	6	→	-	-	3	↓	6	↑
兵庫	34,100	→	726	→	163	↑	34	↑	554	↑	866	→	1,751	↑	1,833	↑
奈良	8,400	→	19	→	0	→	30	→	34	→	40	→	62	→	25	→
和歌山	6,100	→	-	-	-	-	1	→	2	→	2	→	3	→	13	→
鳥取	12,400	→	24	↑	5	→	1	↓	707	↑	338	↑	23	↑	599	→
島根	16,500	→	303	↓	2	→	9	↓	779	↑	569	↑	263	↑	575	↓
岡山	27,900	↓	316	→	126	→	124	→	1,730	↑	346	↑	1,260	↓	1,102	→
広島	21,700	↓	320	↑	21	↓	124	→	424	↑	585	→	309	↑	232	↑
山口	17,400	↓	971	↑	2	↑	38	→	978	↑	313	↑	740	↓	750	↑
徳島	9,980	→	20	→	41	↑	11	→	881	↑	217	→	56	↑	9	↓
香川	11,300	→	38	→	1	→	7	→	139	↑	142	↓	1,138	→	54	→
愛媛	13,200	→	43	↓	-	-	2	↑	271	→	159	↑	514	↓	315	↑
高知	11,000	↓	68	→	-	-	17	→	991	→	263	→	4	→	59	↑
福岡	34,100	↓	228	↑	8	↑	327	↑	2,192	↑	1,657	↑	1,583	↓	7,830	↑
佐賀	22,800	→	383	↑	4	→	29	→	730	↑	1,700	→	948	↓	6,929	↑
長崎	10,800	↓	10	→	3	→	5	↑	112	→	1,307	→	70	↑	295	→
熊本	31,200	→	757	→	21	↑	300	→	1,295	→	7,994	→	775	↓	2,051	→
大分	19,400	→	136	↑	-	-	15	↑	1,565	↑	2,432	→	579	↑	1,242	↓
宮崎	13,900	→	1,926	→	26	→	16	↑	486	↑	6,700	→	18	↑	204	↓
鹿児島	17,100	→	1,451	→	1	→	11	↑	679	↑	3,451	→	67	↑	272	→
沖縄	623	→	37	→	-	-	7	→	-	-	5	→	-	-	-	-

(注1) 主食用米の「4年産意向（対前年実績）」は、3年産実績と比較し、「→：前年並み」、「↓：1～3%程度減少傾向」、「↓↓：3～5%程度減少傾向」、「↓↓↓：5%超の減少傾向」で分類。

(注2) 戦略作物及び備蓄米の「4年産意向（対前年実績）」は、3年産実績と比較し、「↑：増加傾向」、「→：前年並み」、「↓：減少傾向」で分類。

(注3) 主食用米の「3年産実績」は、3年12月統計部公表の主食用作付面積。

(注4) 加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の「3年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「3年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

(注5) 備蓄米の「3年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

引用元：https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/s_taisaku/attach/pdf/220302-1.pdf



肥料情報

被覆肥料殻の流出防止について



環境を守りましょう

水稲用一発肥料には**プラスチック**が使われています

水田から流出させない **対策**をお願いします

被覆肥料は、プラスチック等で肥料をコーティングしているため、肥料の調節が可能です。施肥回数減による軽労化、施肥量の削減、養分の流出防止などの利点がありますが、一方で肥料成分が溶出した後の被膜殻が河川や海へ流出することが問題になっています。

被覆肥料のプラスチック殻は 水田から流出させないようにしましょう！



殻を流さないために



対策1 浅水代かき



対策2 捕集ネットの使用

対策のポイント

対策1 浅水代かき

● 均平化

入水前に田面はできるだけ均平にしましょう

● 畦畔管理

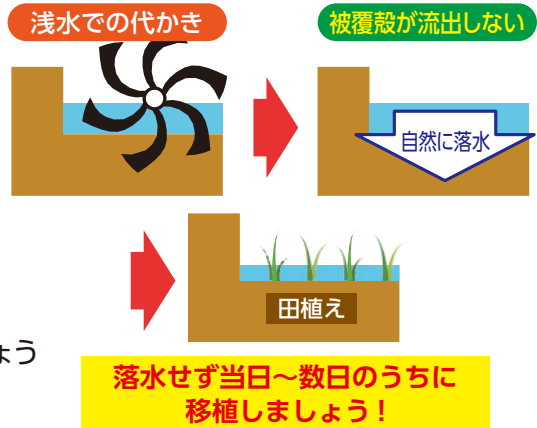
あぜが崩れていないか確認しましょう
排水溝には止水板を設置しましょう

● 入水量

大部分の地表が見えるぐらい浅めの入水にしましょう

● 自然落水

移植前の落水は行わず自然落水により水位を調整しましょう



対策2 捕集ネットの使用 ※強制落水を行う場合の対応策です。

① 材料を揃える

材料一覧例

100円ショップで入手可

①玉ねぎネット ②BBQ用の網

※ネットの網目は2ミリ以下

③クリップ

④園芸用支柱



② 水尻に設置



ネットのみ



園芸用の柵



被覆肥料の殻の
流出防止対策動画

You Tube にて
対策動画を公開しています

◎二段構えで藁詰まりを防ぐ

〈製造メーカー・全農による共同研究・開発について〉

- ①環境にも配慮するため、光や微生物の働きにより土壤中に崩壊・分解しやすくなるように各メーカー工夫をしていますが、分解するまでかなりの時間がかかります。
- ②より速やかに分解させる技術の確立を目指し、メーカーと協力して研究開発に取り組んでいます。



TOPICS

千葉県青果物フェアを実施！

J A全農ちばは、卸売市場21社で構成される千葉会・千葉県・（公社）千葉県園芸協会と連携し、スーパー・量販店において「千葉県青果物フェア」を実施し、千葉県産青果物の一層の認知度向上・消費拡大につながるPR活動に取り組みました。



●2月8日(火) は「べにはるかの日」

さつまいもの主力品種である「べにはるか」の知名度アップと消費の拡大に向け、京浜地区・千葉県内のスーパー・量販店を中心に販促活動を実施しました。「しっとりとして味が濃く強い甘さ」が特徴であるべにはるかは、寒い日が続いたことから各売り場とも順調な販売となりました。

●2月11日(金)～13日(日)：(株)せんだう24店舗で「千産千消」

店舗正面売り場には、赤く鮮やかないちごの“とちおとめ・やよいひめ”や14品目の野菜が陳列され、これらを買求めるお客さまで賑わいました。

●2月19日(土)～20日(日)：(株)コモディイイダ95店舗で販促活動

キャベツ・だいこん・長ねぎ・にんじん・さつまいも（べにはるか）・かぶ・春菊・大和芋・みつば・なばな・葉たまねぎ等県産の青果物が陳列され、季節感のある売り場となりました。

●2月26日(土)～27日(日)：富士シティオ(株)44店舗で販促活動

キャベツ・だいこん・長ねぎ・にんじん・さつまいも（べにはるか）・きゅうり・トマト等、千葉がこの時期を誇る主要7品目の野菜が並びました。

J A全農ちばは、引き続き千葉会21卸売市場・千葉県・（公社）千葉県園芸協会と積極的な販促活動を実施してまいります。産地の皆さまのご協力をお願いいたします。

TOPICS

「根菜類」「果樹」専門指導員研修会を開催

J A全農ちば営農支援部では県内農協職員人材育成の一環として、高度な知識・技術を習得し現場指導に活用することを目的に、千葉県農協A.T.A協議会と共催して専門指導員研修会を開催しました。

2月22日は、営農技術センター（成田市）において、「根菜類専門指導員研修会（第3回目）」を開催しました。研修はだいこん・にんじんを中心品目とし、今回は座学による生理・生態の理解、また第1回目（令和3年11月17日開催）から継続している栽培実習を行いました。

また、24日には同センターにおいて、「果樹専門指導員研修会（第1回目）」を開催しました。千葉県主要品目である梨を中心とし、座学として果樹生産概要・経営収支を説明し、実習として梨の剪定作業等を行いました。

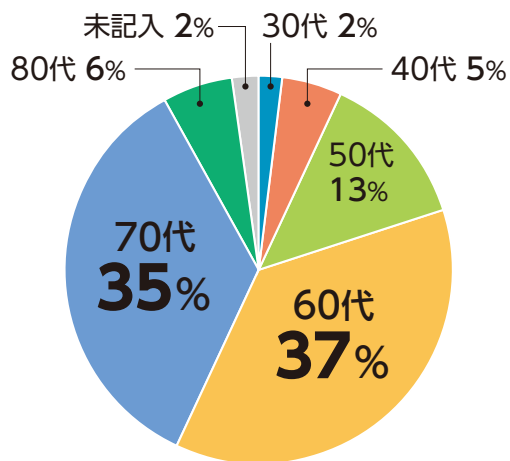
今後も千葉県農協A.T.A協議会およびJ A全農ちばでは県内農協職員の人材育成、さらに習得した知識・技術活用による生産振興支援について取り組みを続けてまいります。

「アグリ情報ちば」アンケート調査の結果について **報告**

12月号の「アグリ情報ちば」において誌面内容についてのアンケートを実施した結果を以下のとおりご報告いたします。

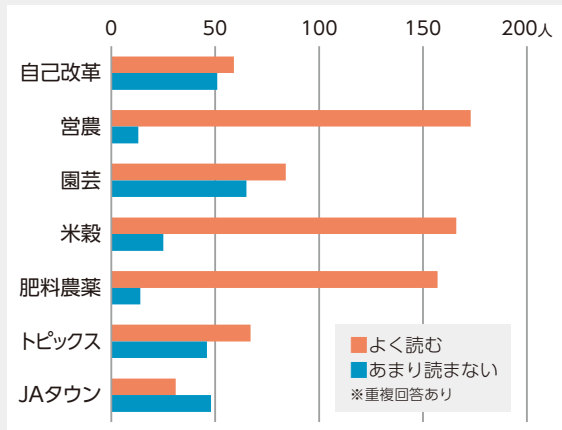
1. 実施期間：アグリ情報ちば12月号発行～令和4年1月20日到着まで
2. 発行数：11,700部
3. アンケート応募数：240件（回収率2.05%）
4. 調査結果：

(1) 年代別構成



●60～70才代の方が全体の約70%を占めています。

(2) よく読む記事・あまり読まない記事



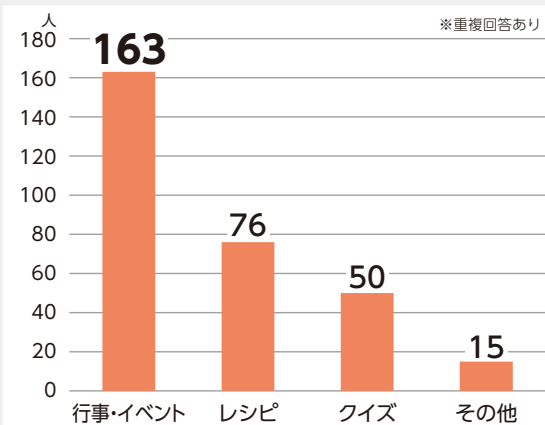
●読まれている記事

① 営農情報 ② 米穀情報 ③ 肥料農薬情報

●読まれている記事

① 園芸情報 ② 自己改革 ③ JAタウン

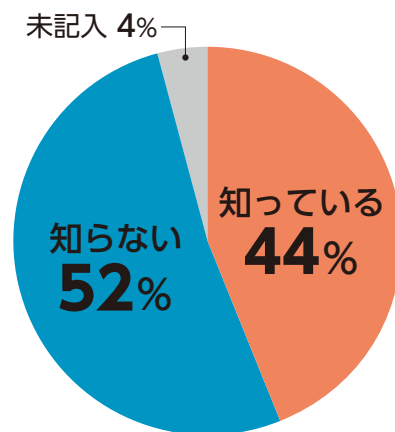
(3) あらたに掲載して欲しい記事



その他のご意見

農機具情報（5件）、豆知識、各地域の生産情報
JAの優良事例、新品種の紹介、SDGsの取り組み 等

(4) HPへの掲載を知っているか



JA全農ちばホームページ▶



多くの皆さまから貴重なご意見やご要望をいただき、心より感謝申し上げます。

スタッフ一同、新たな気持ちで「アグリ情報ちば」の内容充実に努めてまいりますので、引き続きご購読いただきますようお願い申し上げます。

JA全農インターネット通販



JAタウン 千葉県産農畜産物のご贈答・お取り寄せなら JA全農ちば 愛情いちばん館

＼ほんの一例です／ 主な取扱商品

JAタウン“JA全農ちば 愛情いちばん館”では、産地自慢の「ちばの味」を全国へ産地直送でお届けしています。贈り物やご自宅用に是非ご利用ください。

大多喜産のたけのこ☆朝掘り

春の訪れを感じる旬の味(^^)！
大多喜町のタケノコは、「白タケノコ」とも言われるほど色が白く、苦味、えぐ味(アク)が少ない良質なタケノコです！
タケノコは鮮度が命！朝掘りのタケノコをお届けします。
タケノコごはん・天ぷら・バター焼き。
美味しいタケノコ料理でこの時期にしか味わえない旬の味をご堪能ください！



成田の干芋 甘芋ん+ (あま〜いもんプラス)

「甘芋ん+」は、べにはるかを使用しています！



長生(ながいき)トマト

トマト本来の酸味と甘みのバランスを重視した、しっかりとした果肉のトマトです!! サラダやトマトソースなど、色々なレシピに挑戦してください。

旬のフレッシュボックス

お米・お味噌・お花と、その日に生産者が持ち寄る季節の農産物を盛りだくさんに詰め込んだ、旬の特産品ボックス！内容は季節によって変わります。



フルーツ& キャロットジュース

カロテンを多く含む緑黄色野菜の「にんじん」に4種の果物をミックスした栄養と味のバランスのとれた飲料です！



お問い合わせ

全国農業協同組合連合会 千葉県本部 園芸部 園芸直販課
TEL 043-245-2911



愛情いちばん館HP

お知らせ

JA全農ちばは、「アグリ情報“ちば”」が生産者の皆さまとの情報交換の場となるよう努めて参ります。
身近な話題、ご意見、ご要望などございましたら、下記連絡先までお寄せください。

アグリ情報“ちば”に係る 個人情報の取り扱いについて



組合員の皆さまからご提供いただきました個人情報、
「アグリ情報“ちば”」送付の目的にのみ使用いたします。

JA全農が提供するラジオ番組

80. Love TOKYO FM

あぐりずむ WEEKEND

9:30~9:50

毎週(土) 放送

生産者の熱い思いをお届けします。

全農 ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN

13:00~13:55

毎週(土) 生放送

全国の農畜産物をプレゼントします。

JA全農ちば
公式HP



JA全農ちば
公式Instagram

